

どうとくのひろば



6年生の授業より

主題名（授業の題名）：よりよく生きる

ねらい：【よりよく生きる喜び】

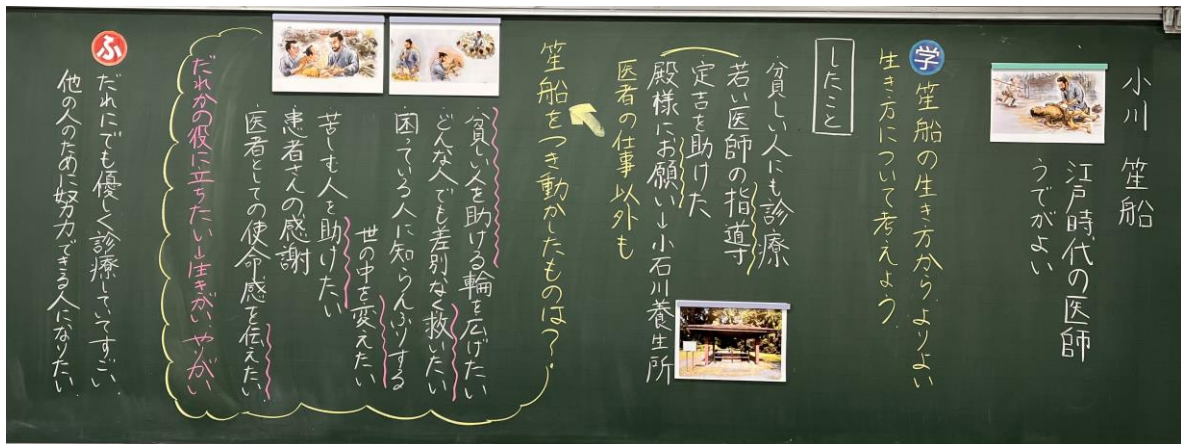
人間がもつ強さや気高さに気付き、よりよく生きようとする心情を育てる。

教材名：「小川笙船」

あらすじ：小川笙船は、身分の高い者だけでなく、診療費を払えない貧しい者たちにも手厚い診療を施した。貧しい病人のための養生所をつくり、若い医師たちへの指導も行った。

授業の実際

まず話を読んで、小川笙船がどんな人物で、どんなことをしたのかを確認しました。そして、自分が素敵だと思った笙船の行いを紹介し合いました。「貧しい人を助けたこと」や「誰でも平等に診療したこと」、「若い医師の指導をしたこと」や「殿様をお願いして、小石川養生所をつくったこと」という意見が出ました。さらに笙船が医師の仕事以上のことを行ったことに注目させ、そこまで笙船を突き動かしたものは何かを考え話し合っていました。「どんな人でも差別なく救いたい心」「貧しい人も助ける輪を広げたい気持ち」「困っている人に知らんぷりする世の中を変えたい気持ち」「医師としての使命感を伝えたい気持ち」など様々な意見が出ました。そして話し合いで出た意見を「誰かの役に立ちたい心」という言葉にまとめていきました。また最後に、「教師という職業のやりがい」について話をしました。笙船の生き方について考え話し合ったことを通して、笙船の生き方の素晴らしさに気付き、自分の今後の生き方につなげようとする姿が発表やノートの記述から見られました。



子供たちの振り返り

- 笙船みたいに他の人のために努力したい。またこれからやりがいのあることを探して生活していきたい。
- これから自分中心ではなく、他の人のためにできることをしたいと思った。
- 笙船はお金を払えない人にも優しく診療していてすごいと思った。自分もこれからどんな人にも優しくしたい。
- 仕事をする上で、誰かの役に立ちたいという心が必要だと思った。未来学習でも考えていきたい。
- 仕事というのはただ働いてお金をもらうだけではなく、その仕事にやりがいがあったり、その仕事で誰かの役に立ったりするのが本当の仕事だと思った。学校で何か仕事をするときも、そのことを考えていきたい。

..... 切り取り

道徳だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

